

第42回 関東医科学生 スキー選手権大会

期間：平成18年3月21日～26日

会場：黒姫高原スノーパーク



主管校：日本医科大学医学部スキー部

第42回関東医科学生スキー選手権大会

期間 : 平成18年3月21日～3月26日

会場 : 長野県黒姫高原スノーパーク

主管校 : 日本医科大学医学部スキー部

加盟大学

慶応大学医学部

昭和大学医学部

順天堂大学医学部

東京医科大学

東京慈恵会医科大学

東京女子医科大学

東邦大学医学部

日本大学医学部

日本医科大学

後援

黒姫高原スノーパーク

大会会長挨拶

大会会長 高橋 弘

日本医科大学第二病院 脳神経外科 教授

第42回関東医科学生スキー選手権大会の会長という大任を仰せつかり、大変光栄に感じておりますが、何とか大役を果たすべく努力していこうと心に誓っているところです。

スキーの歴史は古く、その起源は紀元前2500年以上前にまで遡ると言われていますが、具体的には850年頃の文献にノルウェー北部の戦争においてスキー部隊の記述が見られます。さらに1870年頃に、ノルウェーでスキー部隊のスキー訓練の成果を競い合う競技が始められ、これがスポーツとしてのスキーの始まりと考えられています。日本においては、1902年に八甲田山で青森歩兵連隊の兵士200名が遭難し、ノルウェー国王よりスキーが2台送られたことに始まり、1911年にレルヒ少佐が高田師団に赴任し、スキーの講習会を行ってスキーの普及に努めました。さらに、1930年に映画と著書「スキーの驚異」で世界を席卷したシュナイダーが来日して各地で雪上の実技指導を行い、次第にスキーが冬季スポーツとして脚光を浴びるようになりました。そして、1956年の第7回冬季オリンピックのスラロームで猪谷千春が2位となり、日本人として初のメダリストが誕生したわけです。しかし、その後日本人のメダリストが誕生していないことは極めて残念なことです。

ところで、私自身のスキーの歴史はどうかというと、初めてスキー板をはいたのが高校1年の時でした。それから40年近くが経過したにもかかわらず、一向に滑りを極めることができず、いまだに学生時代に経験した競技スキーを忘れられずにひたすらグレンデを速く滑り降りることに血道をあげています。しかし、以前と異なり足腰が衰えていることを全く自覚しておらず、こぶに派手に跳ばされては、妻にあきれられている始末です。スキーを始めた時に、立って手を伸ばした高さのスキー板が適切と教えられ、どうしても短い板をはく気にならず、モーグルみたいな滑りは邪道と考え、今でもいきなり直滑降で飛ばしたくなります。

医者になって時間が全然無かったにもかかわらず、少しでも時間がとれると近場のスキー場に滑りに行きました。なぜこんなにスキーが忘れられないのか。どうもその原因は、学生時代に経験した関東医科学生スキー大会にあるように思います。東医体

も燃えましたが、やはり北国勢のパワーには圧倒され歯が立ちませんでした。関東大会は何とかなりそうな気がして、いやがうえにも氣勢が上がりました。結局は余り良い成績を上げることができなかったのですが、レースそのものよりも他校の選手達との交流を大いに深めたレース後の懇親会の記憶がいつまでも心に残っています。実は、これがいつまでも私のスキーへの情熱を途切れさせない大きな原動力となっているような気がします。

そんな関東医科学学生スキー大会が今年も開かれようとしています。第42回の本大会に参加される医学生の皆様、各人のこれからの人生に大きな影響を与えるに違いないこの大会を心から楽しみ、素晴らしい思い出を持ち帰って下さい。勿論、勝利を目指してのガチンコ対決もお忘れなく。

大会実行委員長挨拶

大会実行委員長 佐藤幸一

日本医科大学医学部3年

この度、我々日本医科大学スキー部が第42回関東医科学生スキー選手権大会の主管校を務めさせていただくこととなりました。この伝統ある大会を引き継ぎ、盛り上げることができるのは大変光栄なことでもあります。我が日本医科大学スキー部は部員数が年々減少し、現在では現役部員が片手で数えられる程に減少してしまいました。それにもかかわらずこのような大会を行うことができたのはOBの先生方、スキー場の方々のご協力によるものだと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、関東大会では以前より「大学の枠を超えた縦と横との繋がり」を重要視し、他の大会では類を見ないほどの交流を持ち、時にはお互いに刺激しあい、時にはお互いを支えあってまいりました。このような伝統を途絶えさせることなく先輩方から受け継ぎ、後輩たちへと繋げていくことは大変有意義なことであり、喜ばしいことと考えております。

この関東大会に感じること、かける思いは皆さんそれぞれかと思われまます。入賞を狙う方、自分の立てた目標に向かっている方、この大会を通じて仲間を増やしたいと考えている方。さまざまな思いがあると思われまますが、どうか食いを残さぬよう全力でこの大会に臨んでくださることを願っております。ここでの思い出、経験は他では得ることのできないものとなるはずです。

皆で思い出に残る大会にしていましよう。

日本医科大学

顔写真キター—————!!!!

主管ということで、ようやく長い伝統を振りほどきお披露目っす

一部の抵抗勢力を見つけたら至急ご連絡願います。



太田 智博 6



関根 鉄朗 6



佐竹 美彦 5



藤森 啓太 5



佐藤 幸一 3



上田 大介 2



加藤 匡人 2



飽本 哲兵 2

編集後記

3年 砂糖幸一（実行委員長）

あー、やっと完成したー

そして腹が減った。

早く帰ってメシを食べよう。

さて、今年の関東はお馴染みの黒姫で行われることとなったわけですが、皆さんいかがでしょうか？皆さんの健闘を祈ります。

2年 飽本哲兵（パンフ係）

丈介ッ!!! 終ワンネーヨ、パンフ・・・、どーする？

投げる？ いっちゃう??

砂糖さん——！おねがいしまーす



試験前のMr. 砂糖 ⇒

2年 上田丈介（こまザイム）

こうして2006年の3月は・・・

ほとんどの人々にとっていつもの3月と同じように

あたり前に・・・過ぎていった

第42回関東医科学学生スキー選手権大会 完

どんな意味においても、よい大会にナリマスヨウニ。

この大会にほんの少しでも関わりをもった全ての方々に。感謝いたしますッ!! (。_。)//

2年 加藤匡人（あるちゅう）

オレはいつも寝る前にこの日を想像していた・・・

日医が・・・関東大会の主幹として戦うところを毎晩思い描いてきた

一年のときからずっとだ



第42回 関東医科学生スキー選手権大会

発行＊第42回関東医科学生スキー選手権大会パンフレット

発行者＊第42回関東医科学生スキー選手権大会実行委員会

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-1-5

日本医科大学医学部スキー部

印刷＊株式会社 ナール印刷